



花小金井南中学校
コミュニティ・スクール通信

まほろば

「素晴らしい場所」となりますように

No. 3

令和4年 9月1日 発行
小平市立花小金井南中学校
学校経営協議会
会長 眞部 弘



<https://www.kodaira.ed.jp/38kodaira/>

第3回、第4回学校経営協議会開催にあたり

学校経営協議会 会長 眞部 弘

本日は学校が夏季休業中ということで、第3回、第4回の2回分の学校経営協議会を行います。コロナ感染の拡大から、予定していた時間を短縮して実施します。前半の第3回は、研修会です。講師に小平市内の小中学校で、4校の校長を務め、そのすべての学校でコミュニティ・スクールの立ち上げなどに関わったご経験をされている元小平第二中学校校長阿部善雄様をお迎えしています。後半の第4回は、3つの分科会で前回から引き続き検討事項について議論を進めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

Ⅰ 第3回学校経営協議会 報告

- (1) 校長あいさつ
- (2) 講師紹介 「元小平第二中学校 校長 阿部善雄様」
- (3) ご講演
- (4) グループワーク
- (5) まとめ



(3) ご講演 講師 阿部善雄様より ご講演内容の抜粋

【ご自身が教職を退職し「地域の一員」になろうと思ったことについて】

定年退職後どのように生きていくのか考えていく中で、これまでの学校でコミュニティ・スクールを経験し、地域の中で生きていくという生き方を知り、自分が関わってきた剣道を地元の子供たちに教えることで「地域の一員」になろうと考えました。

【1 地域連携について】

地域連携とは地域の人と連携することであると思います。

青少対活動、地域教育コーディネーターによる放課後学習教室…など、すでに多くの活動で子供たちや学校を支えていただいています。そのような地域の方には、子供たちや学校に関わって良かったと思っていただきたい。できるだけ子供たちの笑顔やエネルギーに触れていただき、やりがいや生きがいを感じてほしいと思います。子供たちの教育に地域の方が関わっていただくことが生徒の成長につながっています。

【2 学校経営協議会の役割】

コミュニティ・スクールとはどのようなものでしょう。

コミュニティ・スクールとは、学校経営協議会を設置する学校ということですが、これまでの学校との大きな違いは「決め方を変える 学校経営のやり方を変える」ことです。学校経営協議会に対して学校が提案する教育活動について「承認する」ということになります。地域の皆さんと一緒に学校をつくっていきましょうということだと思います。また、学校経営協議会の委員は校長と一緒に学校の教育に対して責任を負っていただくような気持ちでいてほしいと思っています。

【3 学校の現状】

学校の大きな課題のひとつが教員の働き方改革であると思います。

その中で、国として中学校の部活動地域移行について方針が示されました。簡単なことではないですが、コミュニティ・スクールの中で部活動の指導をお願いすることもあると思います。国が予算をつけることなどまだまだ見えないことも多いですが、このようなことが進められていることを知っておいてください。

【4 小中連携の視点】

小学生から中学生と子供たちが成長する段階を地域の皆様が見守り支えていただけることが何よりありがたいことです。中学生は心と体の成長が不安定で、難しい年ごろとなりますが、地域の皆さんが小さいころから中学生、そしてその先の成長を継続して見守っていただけることがとても大きなことであると思います。きっとそのように見守ってきた子供たちがまた「地域の一員」として次の世代の子供たちを見守り支えていくのだと思います。

(4) グループワーク

阿部善雄様のご講演を受けて、グループワークを行いました。学校経営協議会委員の皆様の感想の一部をご紹介します。

- 我々の活動はまだスタートしたばかりですが、近隣の学校で既に何年間かの活動実績があれば、活動の進展状況をお聞きするとか、ミーティングに出席させていただく事で阿部先生が主張される内容の理解が深まるのではと感じています。
- 色々な立場で経験されてこられたからこそのお話で改めてCSの大切さがわかりました。本当に人との繋がりは何においても大切であり、第一歩でありそこから何事も進歩し、発展していくと思っています。学校経営委員って責任重大なのですが、自分の経験してきたことや考え、また情報などを伝えていけたらと思いました。
- CSと学校、地域の関わりが思っていたより厳格で少し及び腰になりました。一国一城の主が校長先生でその先生次第で良くも悪くもなるものと学校のイメージがあるので、目指す先が余りにも違ってこの先勉強が必要だと痛感しました！雲を掴むかのような理想像だと思いますけど、実際には、具体的に実行に移せる事を一つずつ試行錯誤し、積み重ねながら変えていくしかないかなと思います。非力ながらこの様な活動に加われて、この先が楽しみです!!
- 学校経営協議会の目指すところがより一層明確に見えた気がします。開かれた学校、地域の方と共に運営する学校というところでしょうか。間口を広く様々な年代の様々な職業の方と関わるというのは私が育った頃のご近所コミュニティに似ていると思いました。昨今は防犯上難しいところもあるかと思いますがたくさんの人と関わるチャンスがある学校というのは子ども達の視野を広げるきっかけになることでしょうか。
- コミュニティ・スクールとして、学校経営者としての立場など、どのように変わっていくのかわかりやすく説明していただき、おぼろげだった気持ちがストーンと腑に落ちたようで、良いお話が聞けました。阿部様が退職後の生き方を地域への恩返しへと向けられたお話には引き付けられました。阿部様と関わっている子どもたちは、今後成長していく途中や大人になった時、阿部様に掛けられた言葉や教えに背中を押してもらえる時があると思います。

2 第4回学校経営協議会 報告

(1) 校長あいさつ

(2) 本日の流れの確認

(3) 学校情報について

- ① 学校全般について（今井主幹教諭）
- ② 教務関係について（今井主幹教諭）
- ③ 生活関係について（今井主幹教諭）
- ④ 学習・ICT関係について（齋藤指導教諭）
- ⑤ 施設面などについて（飛永副校長）

(4) 分科会

- ① 地域防災
- ② 学習支援
- ③ 生徒・地域支援

(5) 連絡事項

(6) 副会長より

(3) 学校情報について ①～③ 今井洋平主幹教諭 ④ 齋藤暁指導教諭 ⑤ 飛永直子副校長

① 学校全般について（主に1学期について）

- ・コロナ禍で初めて、予定通りに行事を実施することができた。
- ・特に運動会は、制限もあったが、全校実施かつ保護者も入れることができた。
- ・1年生は川越校外学習、2年生は都内巡り、3年生は京都奈良への修学旅行も実施できた。
→全て7月上旬の暑い時期で心配な面はあったが、生徒がよく頑張っでどれも成功して終えられた。
1年生は標準服、2,3年生は私服で、当日、特に問題はなかったものの、ご家庭での準備面では負担になった部分もあるので、次年度はまた少し検討したい。
- ・コロナ禍が続き、集団行動の力が少し弱くなった部分がある。そのため、5,6月の全校朝礼は全学年を体育館に集めて実施したが、7月は感染状況の悪化から、終業式も含めてまた放送に戻した。
- ・部活動はとても頑張っている。女子バスケットボール部は都大会出場、女子テニス部は多摩大会優勝、男子テニス部は多摩大会5位、バレーボール部は市内大会優勝など、結果を出している。
→一方、生活の多様化で、部活動に求めているものや目標が個々、各家庭で異なる部分もあり、どのような活動をしていくか、顧問も試行錯誤しながら指導している。コミュニケーションを密にしていきたい。

② 教務関係（主に2学期の予定）

- ・来年度のスキー教室と、再来年度の修学旅行の業者選定を行った。校長、副校長、当該学年の教員に加え、CSのメンバーやPTAの方にも入って頂き、比較検討した。結果、来年度のスキー教室はJTB、再来年度の修学旅行は近畿日本ツーリストにお願いすることとした。
- ・9/17、10/5と学校公開日を設定しているが、感染状況を踏まえて、実施の有無や方法を検討したい。
- ・10/19には合唱コンクールを予定している。現段階では全校での実施を予定しているが、こちらも感染状況を踏まえて、練習方法から当日の実施形式、保護者参観についても検討していきたい。
- ・オリンピック・パラリンピック教育では、生徒の保護者の繋がりや、元バレーボール選手でオリンピック大山加奈さんの講演会を計画している。現在調整中。

③ 生活関係

- ・大きなトラブルはなく、1学期間を過ごすことができた。
- ・ここ最近のトラブルはSNS絡みが多い。小学校からの友人関係もあり、トラブルは、他校の生徒も絡むことが多く、全容の把握が難しいことがある。ぜひ小学生の時から、そういった端末の使い方などを学校やご家庭で指導できると良い。今、中学校で起こっていることを中学校教員が小学校でお話しすることもありかもしれない。
- ・夏休み明けは毎年SNSトラブルや、登校意欲の低下などが散見される。9/2には6校時をカットして、面談を実施するなど、生徒に寄り添ってケアしていきたい。
- ・コロナ禍で、集団行動力の低下やオフィシャルな場面で取るべき行動が分からない生徒も散見される。感染状況も踏まえながらになるが、学校でも意識的にそのような場面を作って育てていきたい。

④ 学習関係

- ・中間テストがなくなったことによる、成績の受けとめ方を心配していたが、それぞれの学年に応じた結果の受けとめ方ができていた。
1年生 … 初めての、評価評定を受け取り、1学期の取り組み方をどうふり返っていくかが、これからの課題になる。
2年生 … 1年生のときの課題に、こうでありたいという思いを込めて取り組むことができていた。自分の求める形であったかどうかを振り返っている。
3年生 … 進路を見据えてもう先の未来を見越すことができていく。2学期をどのように取り組んで、どのような成績を目指したいと考え始めることができていく。
生徒の自己評価を振り返ると、復習と予習、それぞれに課題が見られる。これからも毎日の取り組みに声かけをしていきたい。
- ・クロームブックの持ち帰りに関しては、本年度は希望者に持ち帰りをさせている。持ち帰る目的をはっきりさせ、持ち帰ることが負担にならないような形で実施している。学習成果物や学習の経過がしっかり捉

えられるような環境をつくり、クロームブックを自然に持ち帰りたい人が増えていく、そんな形をめざしていきたいと思っている。

⑤ 施設面などについて

○令和4年度の夏季休業中から2学期の工事について

- ・第2多目的室(旧被服室)の普通教室化(1クラス+新会議室)と旧被服準備室の男子更衣室化
これから大きな音が出る(解体など)工事が始まる。2学期の授業開始までに大きな音が出る工事は終わらせる予定。

(5) 分科会

① 地域防災

○花南中学校に避難する自治会リストの確認

○CSの防災担当者の中で本校に避難する委員の確認

○防災倉庫 鍵の番号確認と倉庫の主な備蓄内容の確認

○避難所管理運営マニュアルの作成

- ・校舎配置図の確認と食料保管場所の検討(工芸室か第一技術室)
第一技術室…給食室・配膳室に近く、トラックの搬入可
工芸室も生活用品等の倉庫等での活用が考えられる等の意見あり。

・避難所管理運営マニュアルの検討

マニュアル部分の訂正箇所を確認、検討をしたが、時間がなく全12ページ分のうち2ページ分のみ検討した。



② 学習支援

検定推進委員会では運営の方法に関わることについて協議を行った。とくに、運営方法について発信をしていくことの必要性と、運営方法の継承をしていくことについて話題があがっていた。検定推進委員会としてはどれぐらいの人数が必要で、試験当日の監督者や補助者がどれぐらいの規模になるのか、現実的に必要なことについて確認を行った。まず、次回の協議会で見通しを立て、9月末の英語検定のときに運営方法を集まった委員で学び、当日の仕事について確認、検証していく。

③ 生徒・地域支援

1 前回の検討を踏まえて

- ・不登校など学校にフィットしない生徒を地域が支えるような場所、システム、関係性を作りたい。
- ・一方で、見知らぬ方からの声掛けは、声を掛ける方も掛けられる方も少し難しい。
- ・地域の方でも居場所を求めている人は多く、学校にそのような場所があるとありがたい。

→ 以上を踏まえて、以下のような段取りで生徒と地域の「支援」を形にしていきたい。

① 学校に地域の方が集まれる場所をつくる。(体育館棟の談話室が良いのではないかと考える。)

② その集まりの中で、校内ですれ違えば挨拶、など、少しずつ地域と生徒の顔見知りの関係を構築する。

③ その集まりの中で、学校関係のボランティア等で学校との関わりを広げていく。

④ 関わりが広がった中で、中学生もその場所にいることに違和感がなくなってくれば、不登校生徒等の居場所や支援といったものに繋がってくるのではないかな。

* 談話室は狭いため、初動には適しているが、この活動が大きくなった場合には、別の場所が必要になる。けやき教室も外から入れるため、通級が行っていない曜日などで、将来的には使用できないかな。

【編集後記】

研修会、分科会と盛りだくさんでしたが、講師の阿部善雄様からいただいた「地域の一員」となるというお話は、とても考えさせられました。地域に開かれた学校ということを念頭に置いてこれまでコミュニティ・スクールを推進しようと考えていましたが、自分が地域の一員となるという発想はありませんでした。このような気持ちをもって、自分も地域に関わる一人としてこれからのコミュニティ・スクールを進めていきたいと思いました。

次回、第5回学校経営協議会は9月17日(土)13:00~15:00 本校調理室にて実施します。

副校長 飛永直子